

長谷川テル反戦放送の朗読劇再演される—6/19、大阪堺市

第64回関西エスペラント大会の公開プログラムとして採用された日中大阪府連の朗読劇「戦時下反戦放送長谷川テルの生涯と娘暁子」が、6月19日、大阪堺市・泉北ニュータウンにある、泉が丘・ビッグアイ・ホールで再演され、256名の参加者を再び大きな感動で包みこみました。

大会参加のエスペランチストのほか、堺・泉北の新婦人の会、堺退職教職員の会、治安維持法国家賠償同盟堺支部、日中友好協会大阪府連・堺支部と日中友好交流ー堺・美木多連絡会がこの公演のためチラシ・チケットを普及、エスペラント大会以外に145名が駆けつけ、成功を支えました。



「モルダウ」を合唱するシーン



熱演いただいた、朗読者のみなさん

<アンケート用紙から>

- *50代の女性Nさん「感動しました。私たちの住む播但地域でもやってほしいです」。
- *エスペランチストのHさんは「素晴らしい。エスペラント関西大会に深く大きな意義を付与して下さった。ありがとう」と感激の面持ち。
- *ボランティアとともに鑑賞した視覚障害をもつSさんは、「素晴らしい朗読劇でした。テルさんのような方の存在すら知りませんでした。何よりの反戦活動です。会場で本も買いました。拡大読書器やボランティアさんの助けを借りて早速読みます」と感謝の言葉。
- *Hさん 70代男性「朗読は素晴らしい心に響きました。戦争は市民も兵士も犠牲者です。再び戦争する国につながる安保法制を廃止させたいものです」。
- *新婦人の会のTさんは「朗読劇は初めてでした。伝わる思い、迫力があったと思います。日本にこのような女性がいらしたこと、私たちは学び、大切に声を伝え、声をあげたいです」。



上演前に「モルダウ」を練習するみなさん